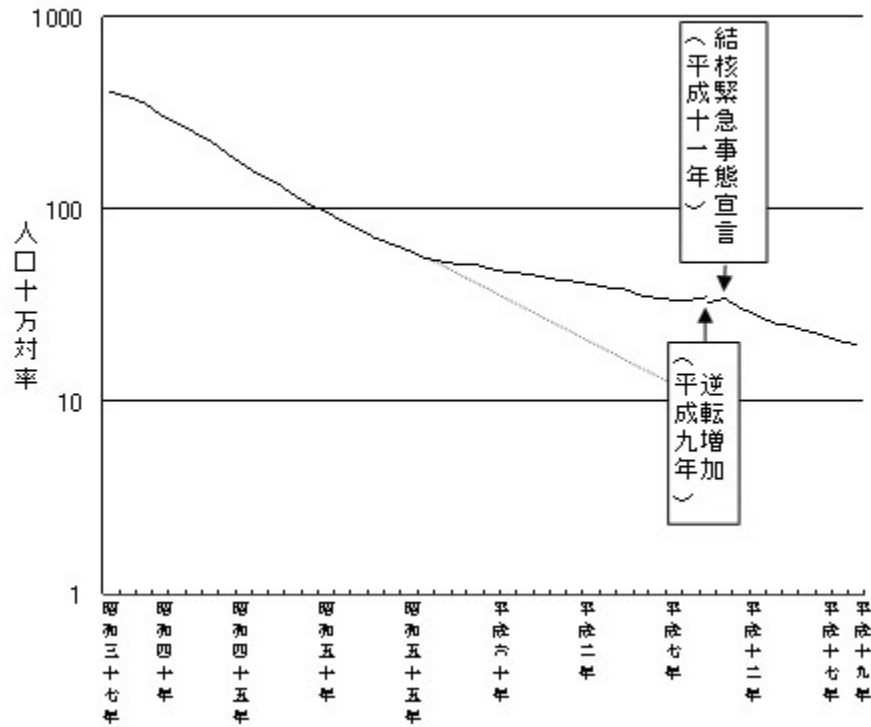


平成19年結核登録者情報調査年報のポイント

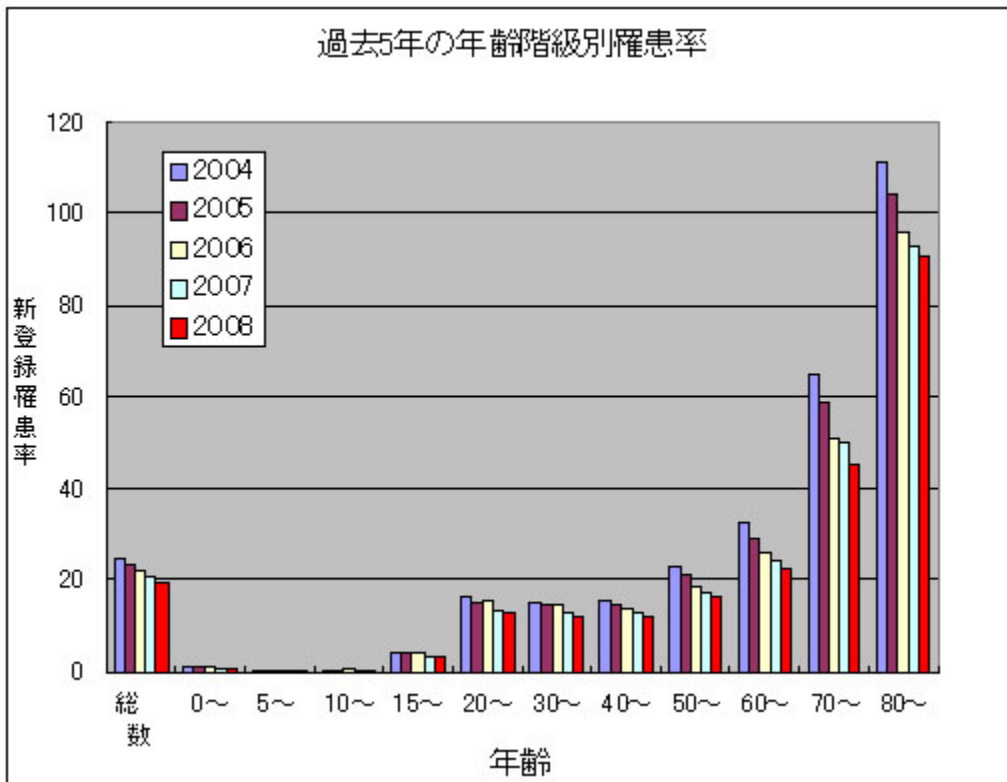
出典：結核予防会結核研究所ホームページ

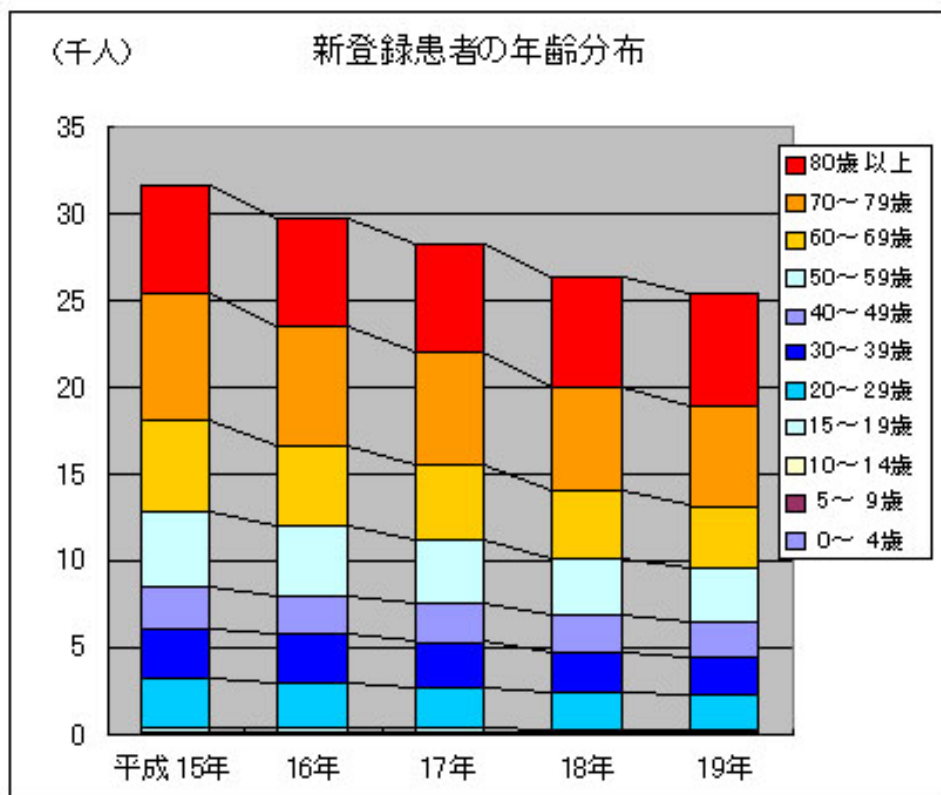
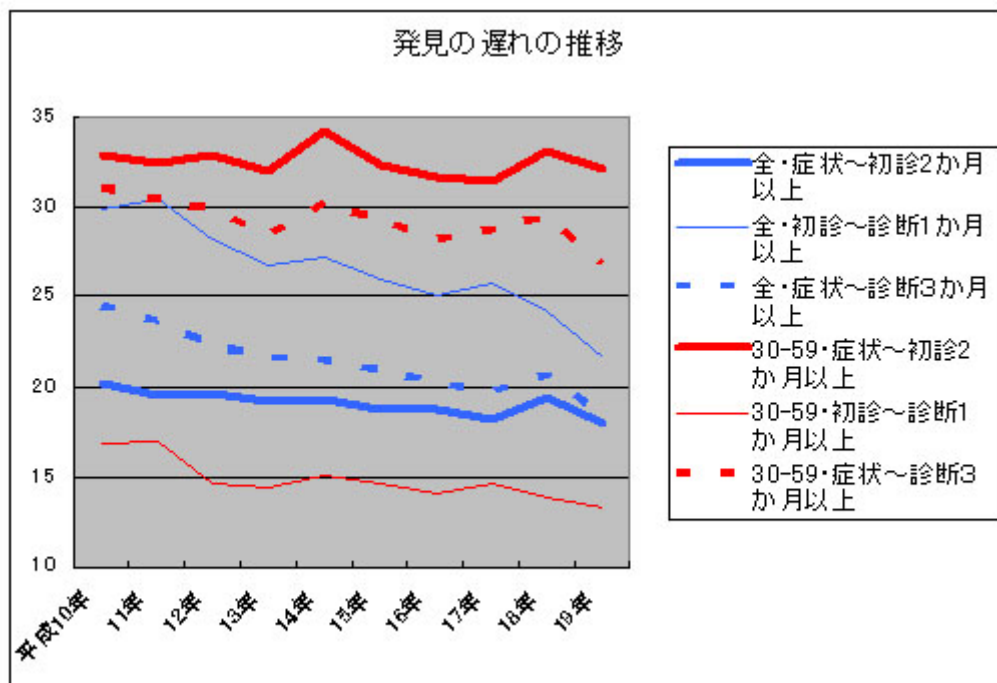
- Point 1 結核罹患率は20を下まわったが、未だ2万5千人以上の患者の発生がある。
新登録結核患者数 25,311人
罹患率（人口10万人対の新登録患者数） 19.8 （対前年比0.8減）
- Point 2 小児結核の発生は92名であり、小児結核患者の中のBCG接種率は低い。
0～14歳 新登録患者数 92人(H18 85人、H17 117人)、BCG接種率 60.9%
- Point 3 20歳代の新登録結核患者の半数はハイリスク者である。
20-29歳新登録結核患者 1,924人
外国人 390人(20.3%)、無職臨時日雇等 352人(18.3%)、医療関係者 170人(8.8%)
- Point 4 80歳以上の高齢結核患者は全患者の4分の1を占め、その割合は増加傾向にある。
80歳以上の割合 25.5% (H18 23.8%, H17 22.5%, H16 20.9%)
- Point 5 外国籍結核患者の数は842人であり、半数以上は入国5年以内に発病している。
新登録結核患者中外国籍患者の割合 3.3% (H18 3.5%, H17 3.3%, H16年 3.1%)
外国籍患者中入国5年以内の割合 全年齢 53.4%、20-29歳 68.2%
- Point 6 潜在性結核感染症(LTBI)の新登録の内、4分の1は30歳以上である。
新登録LTBI者 2,959人、20-29歳 848人(28.7%)、30歳以上 760人(25.7%)
- Point 7 働き盛りの感染性の強い結核患者では、受診の遅れ(2か月以上の割合)は依然大きい。
全年齢有症状肺結核 18.0% 30-59歳有症状喀痰塗抹陽性肺結核 32.1%
- Point 8 結核罹患率の地域格差は依然大きく、大都市で高い。
大阪市 (52.9)、名古屋市 (30.6)、東京都特別区の罹患率(29.3)の罹患率は、それぞれ長野県 (10.3) の5.1倍、3.0倍、2.8倍
- Point 9 世界的に見て、日本は依然として結核中まん延国である。
日本の罹患率 (19.8) は、カナダ (4.4) の4.5倍、米国 (4.5) の4.4倍、スウェーデン (5.4) の3.7倍

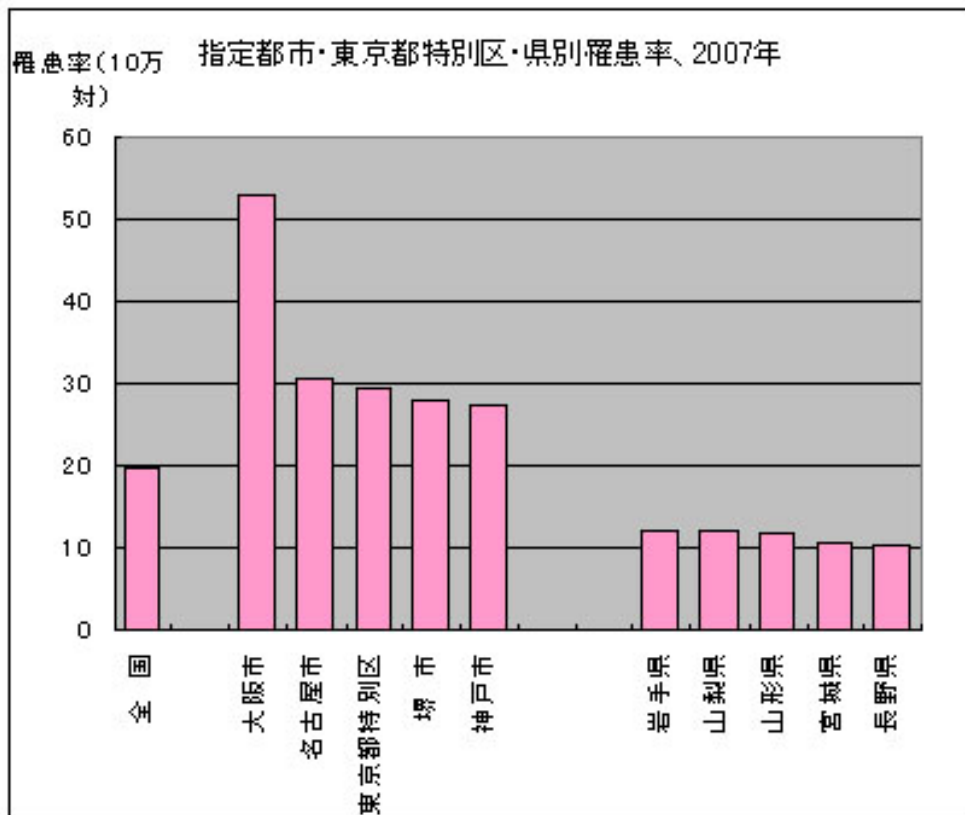
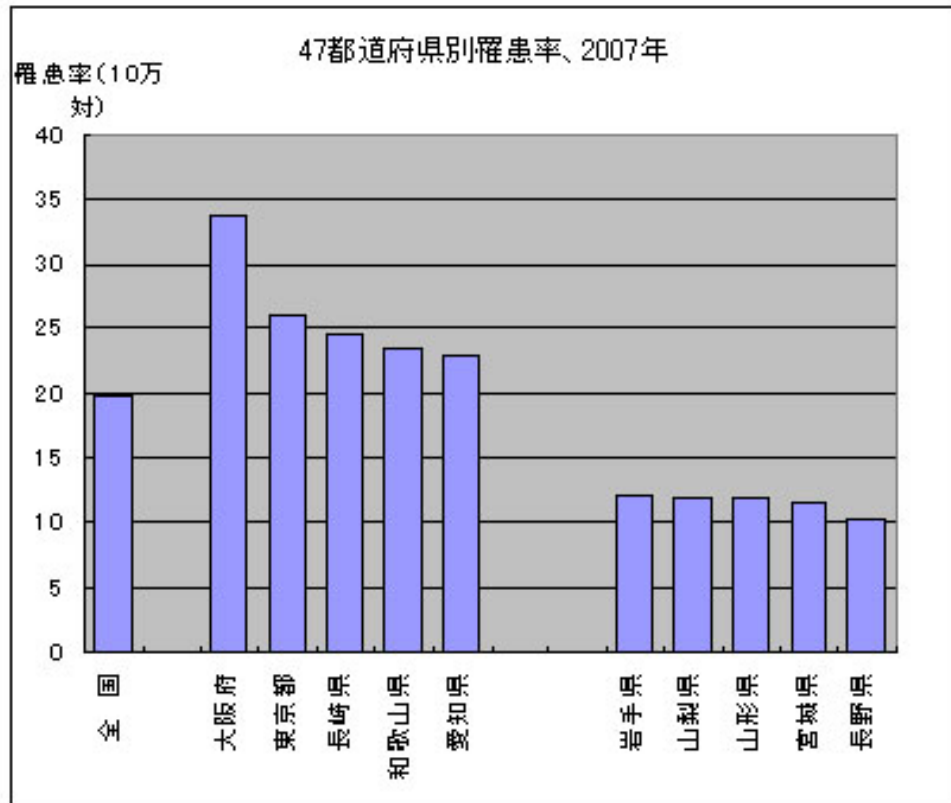
結核罹患率の推移(全結核)

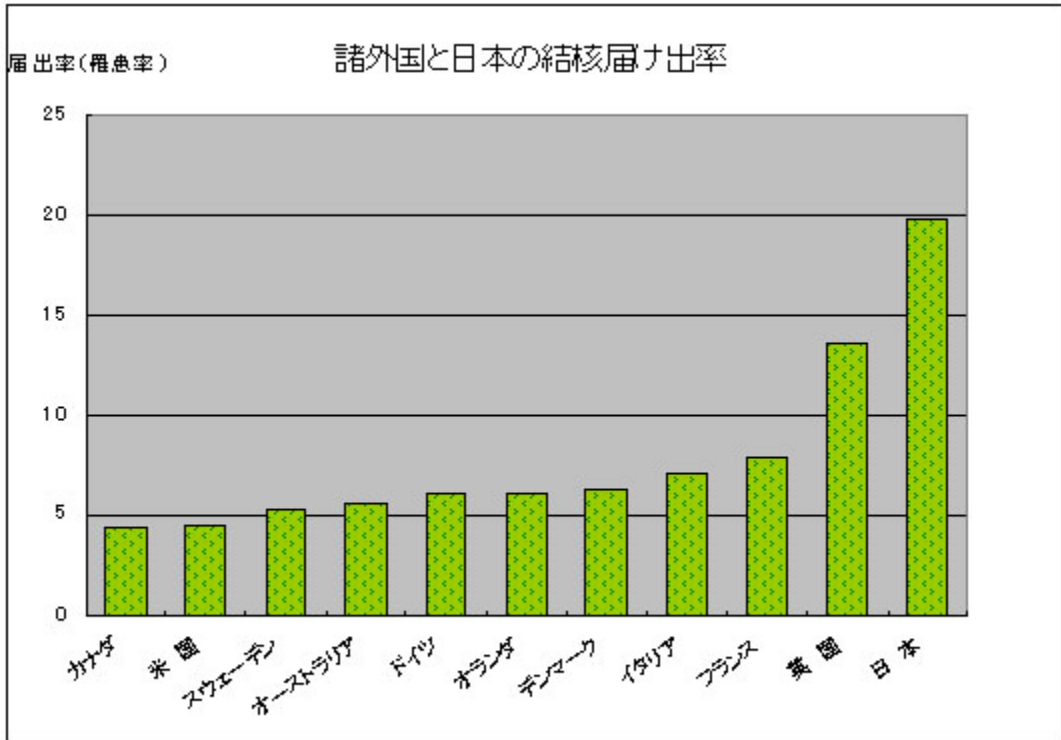


過去5年の年齢階級別罹患率









日本:2007年 諸外国:2006年、Global TB Control WHO Report 2008

